

病 院 名	医療機能別病床数							再検証の内容※ (H29.7時点からR7までの対応)							役割※												病院の考え方		県作成資料
	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休養中	再編、統合	減床	転換	調整中	見直しなし	特定機能病院	地域医療支援病院	がん	心疾患	脳卒中	救急	小児	周産期	災害	へき地	研修・派遣	在宅	役割・医療機能及び機能別病床数の考え方	医療連携の考え方	地域及び県の考え方			
板柳中央病院	H29	87		55		32																			【役割・医療機能】 現在の役割を担う。（救急の領域も引き続き担う。）がん、心疾患、脳卒中の領域は、専門医確保が困難なため、弘前大学医学部附属病院等との連携により取り組む。医療機能としては、回復期及び慢性期を担う。  【病 床】 減床、転換  【病床規模の最適化に係る検証】 ①病床利用率や医療需要（人口減少等）の観点から医療需要について 板柳町の各年齢階層別推計人口に、厚生労働省2020年患者調査の概況に基づく受療率を乗じて患者数を推計したところ、令和2年（2020年）は155.7人、令和7年（2025年）は151.8人となり、緩やかな減少となるものの、当院の主な利用者層（後期高齢者）は増加しており、現在と同程度と医療需要が見込まれる。 病院全体の病床利用率は、平成29年から令和元年までの3ヶ年平均が76.1％、令和3年では72.8％（一般病床（回復期）：70.2％、療養病床（慢性期）：76.5％）と低下しているものの、今後、休床中の3床について、医療提供体制や診療実績を踏まえて減床し、弘前総合医療センター等との医療連携を進め、後方支援病院としての役割や機能を強化することで利用率の改善が見込める。  最大使用病床数について 令和3年度の病床機能報告における最大使用病床数は、一般病床（回復期）が48床中40床、療養病床（慢性期）が、32床中32床となっており、一時的な医療需要の増加を踏まえた場合は、適正な病床規模となる。  以上のように、医療需要の継続や病床利用率の改善が見込めることから、現在の病床規模を維持（休床3床は減床）する。  ②その他（地域における特殊事情等） 療養病床については、板柳町内に医療対応が可能な介護老人保健施設や介護医療院などの介護施設が無いことから、必要な病床数を維持。	【基本方針】 弘前大学医学部附属病院やつがる総合病院、弘前総合医療センター等地域において中核的医療を行う基幹病院、田中外科内科医院など地域のかかりつけ医機能を担っている診療所等と、主力診療科である内科を中心に、他の診療科も含め連携を図り、当院単独では対応困難な疾患についても、患者にとって最適な医療を提供できる体制を整えます。  【具体的な医療連携について】 ・弘前大学医学部附属病院関係 内科の領域を中心に、弘前大学医学部附属病院への患者紹介、弘前大学医学部附属病院より急性期治療を経過した患者の受入れや患者の在宅復帰支援等を行うなど相互に連携する。  ・つがる総合病院関係 内科の領域を中心に、つがる総合病院への患者紹介、つがる総合病院より急性期治療を経過した患者等の受入れや患者の在宅復帰支援等を行うなど相互に連携する。  ・弘前総合医療センター関係 内科の領域を中心に、弘前総合医療センターへの患者紹介、弘前総合医療センターより急性期治療を経過した患者等の受入れや患者の在宅復帰支援等を行うなど相互に連携する。  ・その他（民間病院等） 内科の領域を中心に、田中外科内科医院など地域のかかりつけ医機能を担っている診療所等より在宅において療養を行っている患者等の受入れや患者の在宅復帰支援等を行うなど相互に連携する。	令和5年 月 日 合意済・合意未済		
																											特記事項		
	R7	77			45	32																							

※再検証の内容について  
 （ ）は、R4.9以前の取組内容

※役割について  
 ○：引き続き当該領域を担っていく場合  
 △：他の医療機関との機能統合や連携、機能縮小、機能廃止等  
 —：以前より当該機能を担っていない場合